

3 他誌掲載論文、学会及び協議会発表

(1) 冷凍加工食品中の有機リン系農薬簡易一斉分析法の検討

生活衛生部門

伴 創一郎, 伴 埜 行則, 堀江 真弥, 和田 好生, 影平 俊介, 出口 夫美子, 稲田 眞之助, 川勝 剛志

ア 発表先

第 45 回全国衛生化学技術協議会年会 (佐賀市)

イ 抄録

国や地方自治体の残留農薬の検査の対象は、生鮮食品が中心であったが、2008 年 1 月中国産冷凍餃子メタミドホス混入事件が発生し、加工食品についても検査対象とする動きが広まった。京都市においても、事件発生直後に、市内に流通する中国産冷凍食品の緊急収去検査を実施した。また、平成 20 年度より冷凍加工食品中の残留農薬について収去検査を実施することとなった。冷凍加工食品中の残留農薬検査の実施にあたり、有機リン系農薬 56 種について QuEChERS 法を改良し、アセトニトリルで抽出、塩析後、C18 ミニカラムで脱脂し、EnviCarb II /PSA ミニカラムで精製する方法を検討した。冷凍加工食品 4 種類について添加回収試験を行った結果、一部の農薬を除き良好な回収率が得られた。本分析法は冷凍加工食品中の有機リン系農薬の分析に使用可能であると考えられた。

(2) 京都市と畜場搬入豚における萎縮性鼻炎原因菌の分離状況

病理部門

栗田 知明, 中川 善宏

ア 発表先

平成 20 年度全国食肉衛生検査所協議会近畿ブロック会議 技術研修会 (大阪府)

イ 抄録

萎縮性鼻炎 (AR) は、鼻甲介の形成不全あるいは萎縮を特徴とする豚の呼吸器系感染症で、*Bordetella bronchiseptica* (Bb) 単体の感染もしくは毒素産生性 *Pasteurella multocida* (toxPm) との複合感染によって起こる。特に後者の場合には、症状が著しく悪化することが知られている。この疾病は、平成 16 年 2 月のと畜場法の改正に伴い、新たにとさつ・解体禁止及び全部廃棄の対象疾病に加えられた。そこで今回、京都市と畜場に搬入されている豚について、AR 原因菌の汚染実態を把握するために保菌調査を行った。

京都市と畜場搬入豚における AR 原因菌の分離率は、Bb においては外貌所見ありで 15.4%、なしで 22.0%と、外貌所見の有無による差異は認められなかったが、toxPm においては外貌所見ありで 92.3%、なしで 32.7%と、外貌所見がある場合の方が高い保菌率を示した。

農場別では、それぞれ Bb の保菌率が高いところ、toxPm の保菌率が高いところ、いずれも高いところなど、各農場による違いがみられた。今回調査したいずれの農場の豚からも Bb と toxPm の両方が分離されており、AR の発生が起りうる状況ではあった。と畜場法の改正により AR がとさつ・解体禁止および全部廃棄の対象疾病になったことを踏まえ、生産農家にそのことを周知しワクチンによる予防を促す必要性があると考えられた。